学校番号	Ｔ０２０６

令和２年度　芸術科（書道）

教科	芸術・書道	科目	書道Ⅰ	単位数	２単位	年次	３～４年次
使用教科書	書道Ⅰ　（東京書籍）						
副教材等	なし						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・小学校、中学校の授業で学んだ書写と、高等学校で学ぶ芸術としての書道との違いを理解しましょう。
・漢字作品は楷書、行書を中心に、仮名作品は連綿を主に、様々な作品を臨書する中で、筆使いや書法を学び、創作作品へと発展させていきます。
・多くの作品を鑑賞し、書への関心を深め、書を愛する心を育てます。

２　学習の到達目標

書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。

３　学習評価（評価規準と評価方法）

観点	a.書への関心・意欲・態度	b.書表現の構想と工夫	c.創造的な書表現の技能	d.鑑賞の能力
観点の趣旨	書の伝統と文化に興味関心をもち、「書く」、「観る」楽しさを味わい、主体的に鑑賞や作品制作に取り組もうとする。	書の趣、美しさを感じ取る中から、感性を磨き、自らの構想に基づき表現を工夫している。	基礎的な能力を応用し、効果的な表現技能を身につけ創造的な書表現がなされている。	日常生活における書の効用と書の伝統文化を理解し、創造的に書の価値、美しさを味わっている。
評価方法	観察 レポート ワークシート ポートフォリオ	観察 レポート ワークシート ポートフォリオ 提出作品	観察 レポート ワークシート ポートフォリオ 提出作品	観察 レポート ワークシート ポートフォリオ 提出作品

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	内容	単元（題材）	学習内容	主な評価の観点				単元（題材）の評価規準	評価方法
				a	b	c	d		
前期		書写から書道へ	・国語科書写と芸術科書道 ・姿勢、執筆法について ・用具、用材、運筆法による表 現法の比較 ・書体の変遷	◎	○	○	○	a:書写と書道の類似点、相違点、書体の変遷に興味を持ち、意欲的に取り組もうとしている。 b:正しい姿勢、執筆法が身についている。 c: 書写の基礎、基本を踏まえ表現を工夫している。 d:書体の変遷を理解している。	観察 レポート ワークシート ポートフォリオ 提出作品
		漢字の書（楷書）	楷書の成立と唐の四大家 ・欧陽詢　九成宮醴泉銘 ・虞世南　孔子廟堂碑 ・褚遂良　雁塔聖教序 ・顔真卿　自書告身 その他の代表的楷書 ・牛橛造像記 ・鄭道昭　鄭儀下碑	◎	○	○	○	a:古典を臨書する意義を理解している。 b:各古典の書風と字形の特徴を把握できている。 c:各古典の用筆法、運筆法を理解し表現できている。 d:楷書の成立を理解し、様々な書風が鑑賞できたか。	観察 レポート ワークシート ポートフォリオ 提出作品
後期		漢字の書（行書）	行書の成立と中国と日本の書 ・王羲之　蘭亭序 ・顔真卿　争坐位文稿 ・空海　風信帖	○	◎	○	○	a:楷書と行書の相違点を理解できている。 b:行書の特徴に基づいて用筆、運筆、結体ができている。 c:中国および日本の行書の古典作品の臨書をし、それぞれの異なった表現法を理解している。 d:王羲之、空海の概略を理解できている。	観察 レポート ワークシート ポートフォリオ 提出作品

後期		篆　刻	落款と篆刻 ・書作品に於ける落款と落款の役割と用法 ・篆書について ・落款印の種類 ・制作の手順 ・作品鑑賞	○	◎	○	◎	a:書作品を鑑賞し、落款の入れ方を理解できている。 b:作品における落款の役割と効果を理解できている。 c:落款における印の使い方を理解できている。 d:篆刻の制作を理解し、落款印を彫ることができた。	観察 レポート ワークシート ポートフォリオ 提出作品

※　表中の観点について

a：書への関心・意欲・態度

b：書表現の構想と工夫

c：創造的な書表現の技能

d：鑑賞の能力

※　原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行なう観点（もしくは重み付けを行なう観点）について、優先度の高いものから、◎、○、空欄として示している。